



言葉のチカラ

社会福祉法人 大阪誠昭会 寝屋保育園 園長 田中啓昭ひろあき

張り紙の効果

今回は、「子どもにとって大人(親)は最大の環境である」というテーマに基づいて、子どもへの影響が大きい「言葉のチカラ」について考えてみたいと思います。

①②の2枚の写真は、近隣の国道沿いに貼ってある張り紙です。



張り紙をしている場所は、各々違うものの、シチュエーションはほぼ同じ条件。そして、目的にしていることも全く同じです。目的は「ゴミの不法投棄を止めさせたい!」。車での信号待ちや通過する際にゴミを捨てていくドライバーがあまりに多いので、張り紙をしているようですが、あなたはどちらの方がゴミを捨てないようになりたいと思いますか? 考えるまでもなく、ほとんどの方が②を選ばれたと思います。

アプローチの方法と効果

この場所も、以前はすごくゴミが捨てられていたのですが、きれいに掃除をされ、この張り紙が取り付けられるようになってからは、まったくゴミが捨てられていないのです。きれいさっぱりと、驚くほどに。

親子のかかわりに置き換えてみることで、これらは子育てにも共通することなんだと改めて気づかされるのです。

求めている成果は同じもの。だとしても、アプローチの仕方



子どもにも分かる平易な言葉でその理由を話してあげることでだと思えます。立場を置き換えることができるように、当事者感を身につけていけるように、そして何より心が育つように話していくのです。

約束を守らなかった場合など、すでに結果が出てしまった場合でも、子どもの丈まで降りていって、気持ちに寄り添い、約束を守らなかった(守れなかった)子どもなりの理由を受け止め、それから戒めるような話をして決して遅くはないはずですよ。

それなのに、多くの親は理由も聞かずにいきなり頭ごなしにガミガミと…。これでは、子どもの心が育つ隙間など全く見当たりませんよね。頭に血が上って、「コラッ!」といひそうになったときは、まずはひと呼吸ついて、このことを思い出してみてくださいね。

いろいろと書かせていただきましたが、思いのほか、言葉を持ってすごいチカラを持っているんだと改めて気づかれました。だから、子育てにこの言葉のチカラを借りない手はありませんよね。まずはそのチカラを借りて、子どもの気持ちを受け止め、心をオープンにして親子の気持ちを通い合わせることから始めてみませんか。

でずいぶんとその結果は違ってくるものなのです。
例えば、電車の中で子どもが座席に座ったまま外の景色を見たいといい出したとします。今は子どもの靴を脱がせる親もめっきり少なくなりまして。靴を脱がせる親でもただ単に「靴を脱いで座席にあらなさい」と子どもに注意するだけ。しかし、私がおすすめるのは、それに加えて、なぜ靴を脱ぐ必要があるのかを子どもに分かるように伝える方法です。例えば、「靴のまま座席に上がると、次に座る人のお尻が汚れちゃうからだよ」など。
もちろん、コチラも結果は歴然ですよ。つまり、プロセスの中でもっとも大切なことは、何もかも大人の目線で一方的に義務として押し付けられないこと。子どもの丈まで大人が降りてきて、相手の気持ちを推し量って考えていけるように、